

気をつけましょう

豚

◎離乳前後の子豚管理◎

気候が寒く、不順になり勝ちなので、飼料によくなれていない離乳前後の子豚は下痢をおこし易く、またこれからの発育のよしあしを決める時期ですから飼料の給与は一時に多量与えないで糞の状態を見ながら次第に増量します。

冬季は青物不足から乳汁成分がかたより、哺乳子豚がマツ白になって下痢します。豚舎の保温につとめ、子付母豚にはできるだけ青草類またはビタミンを与えて子豚の下痢を防ぎましょう

◎飼料効率のよい素豚選定◎

今年上半期の肉豚相場はあまり期待がもてないようです。飼料効率のよい素豚を選んで養豚経営の安定をはかって下さい。豚枝肉 1 kg の畜産事業団買入れ下限価値は 270 円ですが、最低値を予測して次の条件の素豚を選びましょう。

出荷時体重	90kg
枝肉歩留	70%以上
子豚価格	肉豚販売価格の 20%以内
飼料要求率	3.5 以内
飼料 1 kg	35 円以内

鶏

蛍光灯を使用した鶏の点灯管理

鶏の点灯管理において、最近の使用電力の割に発光能力が高く、しかも有効寿命が長いとされておる蛍光灯の使用が普及されておるが、蛍光灯は鶏の性腺刺激に有効な赤色部の波長含量が白熱電球より相当劣っておる。又蛍光灯の発光能力は温度が低下すると一般に低下する。これは我々が日常生活において、寒い時期にどうも蛍光灯を暗く感じるという経験からもよくわかることであるが、蛍光灯の発光能力に適した周囲温度は摂氏 21.1 度—26.7 度であって、摂氏 10 度になると蛍光灯の発する明るさは 5—15% さらに 0 度になると 20—40% 低下するといわれておる。このようなことから鶏の点灯管理に蛍光灯を使用する場合は鶏に最も強く感ずる波長の光線を多く含んだ真天然白色の蛍光灯を使用することがよい。早期点灯とか、気温の低下のはげしい時には低温用蛍光灯を使用する方がよく、又温度低下による発光能力低下を防ぐために反射笠の下面にガラス板を取りつけて討ずるのも 1 つの方策と考えられる。

草

◎飼料自給計画を練っておこう◎

乳牛にせよ、肉牛にせよ、その経営計画のもとに事を運んで行かねばならないと同様に、その一部をなす飼料自給計画も、この年の始めの時にあたって練っておこう。完全なものは一度に出来ないにしても、それは毎年の経験を記録しておいて、1 年 1 年完成に近づくようにすればよい。先づ冬や、盛夏用の貯蔵飼料は何を向けるかを決めることが大切です。それを決めてから春、秋の生産計画を樹てるのが順序です。又毎日青刈りするものは近くの圃場に、乾草や埋草は遠い圃場に栽培する考えも必要です。他の作物、例えば水稲と労力が競合する時期のこともよく考えておく。どうしても面積が足りない時は、裏小作なり契約栽培を今から頭に入れておいて、行き当たりばったりにならないようにしたい。

◎かぶ跡の春播えん麦播き付け◎

県南部のかぶ跡に春播きをする予定地は霜が弱くなったら早く播きつけるのがよい。